

令和4年度自己点検・評価の概要
(自己点検・評価報告会スライド資料)



令和5年2月

滋賀大学

未来創生大学を目指して



- 昨年4月より第4期中期目標期間が開始
- キーワードは「未来創生大学」
 - 日本の未来を切り拓く人材の育成
 - 社会・地域・産業界との連携を強化し、研究成果を社会実装
- 第4期中期目標の大きな項目
 - 社会との共創
 - 教育
 - 研究
 - 業務運営
- これらのいずれにおいても着実に成果を積み上げる。
- 毎年の自己点検・評価によるガバナンス

社会との共創



- 大学独自の目標:データサイエンス・AIの社会実装の推進
- データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターへの拡大改組
- 4つの部門を統括する社会DX研究推進部門の設置
- 国内最大規模の研究教育拠点
 - 50名近くの専任教員
 - そのうち4割近くは外部資金による採用
 - 外部資金獲得
- 企業や自治体から多数の問い合わせ
 - 管理機能の強化
 - URAの採用
- 施設の制約:新たな施設の整備を目指す(私の任期中)

- 社会人のリスキリング
 - 大学の新たな役割
 - データサイエンス研究科への企業派遣
 - 企業に対する教育プログラム
 - 経済学部ビジネスサイエンスMOOC
- 地方創生
 - 地元のプラットフォーム構築と、それによる外部資金獲得活動
 - キャンパスのイノベーション・コモンズ化
 - 彦根キャンパスでは、講堂や陵水会館を社会連携に活用
 - 好事例として紹介

5 滋賀大学

地域、グローバルの視野をあわせもつ
「データサイエンス・リーディング拠点」づくり



■ 主なステークホルダー
滋賀県、彦根市、大津市、総務省、統計数理研究所、理化学研究所、近畿銀行、京都銀行、全国企業

■ 建物基本情報
データサイエンス棟
構造規模：R C造5階
建築面積：289㎡
講堂
構造規模：W造2階
建築面積：679㎡
陵水会館
構造規模：W造2階
建築面積：293㎡
総事業費：約6億円

01 概要

企業等と連携したデータサイエンスの教育研究・人材育成

最先端研究拠点 スタートアップ
社会課題の解決 教育

- 全学的な学部のデータサイエンス教育の体系化
 - 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定
 - 「応用基礎レベル」の申請においては、3学部ともに認定。データサイエンス学部は「プラス」
- リベラルアーツ教育
 - リベラルアーツ・STEAM教育研究センター
 - アントレプレナーシップ教育の展開
 - ←産学公連携推進機構にアントレプレナーシップ部門
- 経済学部改組：総合経済学科の1学科、レイトスペシャライゼーション
- 大学院では、デジタルと掛けるダブルメジャー採択：経済×DS、教育×DS
- 経済学研究科「経営分析学専攻」新設



MDASH
Advanced Literacy

Approved Program for Mathematics,
Data science and AI Smart Higher Education,
designated by the Gov. of Japan

(認定期限:令和9年3月31日)

- データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター
 - 個別課題の共同研究から、企業全体のDX支援へ
 - 管理機能の強化
 - 3番目の企業研究拠点を学内に設置
- 外部研究費による人件費等負担制度
 - 競争的研究費の直接経費から研究代表者等の人件費を支出
 - 民間等との共同研究にもこの制度を適用
- 学内の研究助成制度の再編
- 科研費申請及び獲得の支援
 - 申請率、採択率向上が課題
- 研究不正や研究費の不正使用防止

- 経営協議会運営の改善
- オンラインによる効率化とともに、対面の機会の確保
- 情報インフラの充実によるDX化の推進
- ウクライナ支援、募金活動
- 経済学部創立100周年
 - 陵水会との協力強化
- 2025年は教育学部150周年

- 今年度、コロナ禍の影響は幸い限定的であった。

教育・学生支援の取組



【教育】

・文理融合教育の促進と内部質保証の取組

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度
(**応用基礎レベル**)に3学部ともに認定

DS学部は**プラス**選定

同リテラシーレベルの受講修了生に

オープンバッジの発行を開始



・全学共通教養改革の推進

教養改革の実効性を高める検討を多面的に実施

・with/afterコロナに向けて

対面授業を原則とした多様な授業形態

教育・学生支援の取組

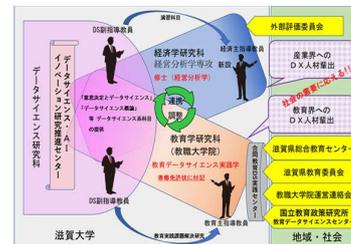


【教育】

・デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業採択

経済学研究科に「経営分析学専攻」を新設し、「修士(経営分析学)」(予定)を授与

教育学研究科は「教育データサイエンス実践学」のエキスパート養成



【学生】

・新型コロナウイルス感染症対応

課外活動等の再開 滋和戦/休業期間中の合宿/学園祭



- ・新型コロナウイルス感染症への対応
閲覧席の一部を個別ブース型デスクに
来館が難しい学生に資料を郵送
学外者への図書館開放を申請制で実施
QRコードで座席利用状況を把握(終了)



・特筆すべき活動

学生の貸出冊数の上限引き上げ

卒業論文作成に伴う資料収集などの貸出冊数増加への要望に対応し
4回生と特別支援教育専攻科生の貸出冊数の上限を5冊から10冊に

シラバス指定図書を中心とした電子ブックの整備

オンライン授業の普及に伴いシラバス指定図書等で学生需要が高い
電子ブックを積極購入し、電子ブック利用の利点を効果的にPR

□ 入試

・学部入試の取組

特別選抜：総合型選抜試験で見直しを予定

一般選抜：経済学部改組(1学科制)で志願者増を目指す

・大学院入試の現状

教育学研究科、経済学研究科で定員未充足

・検討課題と取組

定員見直し、効果的で積極的な入試広報、入試ミス防止

□ 高大連携

若狭高校と連携協力協定

3年ぶり対面OC

・検討課題と取組

ICTを活用した高大連携の工夫

IR室と協働した企画・立案



with コロナ禍下の国際交流の推進

- ◇ 危機管理
帰国・渡日の支援(海外渡航学生、来日留学生、来日できない留学生)
学生の危機管理対応マニュアルの改訂
- ◇ 海外派遣短期研修の再開等
海外大学の受け入れ体制を確認し、短期研修派遣2プログラムを再開
(オーストラリア研究、メキシコ語学・文化研修)
交換留学派遣 協定校へ3名派遣 ・ トビタテ留学Japanの新規募集開始

海外協定校の見直し・新規開拓

☆ 本学学生が交換留学に行きたいと思う大学の模索

協定機関との協力

☆ CIEE京都からの受入留学生と本学学生・附属学校園児童、生徒との交流

⇒ キャンパス国際化



キャンパスツアーの開始



音楽棟でのワークショップ



附属幼稚園での交流



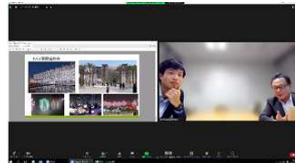
附属中学校での交流

アメリカ人留学生との交流会の様子(彦根キャンパス、大津キャンパス、附属学校園)

with コロナ禍下の国際交流の推進

学生の国際交流への関心や国際感覚の醸成

☆ 学生参画型の学内セミナー: グローバルセミナーを開催
学内外・国内外の講師による対話型セミナー 月1回開催(予定)



グローバルセミナー(第24回)「世界を舞台に仕事をするとは～万博に携わる中で感じた世界～」(Zoom)

☆ 学生による国際交流企画組織: 国際交流アソシエイトの活躍



「アメリカ人留学生と交流会」でキャンパスツアーの案内役をする国際交流アソシエイト

☆ 人的交流再開を見据えたCMRUとゾイド大学の学生とのオンライン交流を実施
(大津キャンパス)

- ◇ 今後の方向性
短期研修受入れの再開、キャンパス国際化の拡大
人的交流の再開による、本学のあるべき国際交流の推進を目指す

◆ 知の社会実装に向けた組織的な連携の強化

- ・産学公連携推進機構の組織改編 **New**
— **アントレプレナーシップ部門** 及び **地域連携教育推進部門** の立ち上げ
- ・連携プラットフォームとしての協定
— 2022年新たに**10件**の連携協定を締結

連携協定合計**139件**
【企業】71件 【学校等】23件 【官公庁等】42件 【その他】3件

◆ リカレント教育の推進

- ・リカレント教育に関する情報発信
- ・各種講座の開講
— ウエルネスツーリズムプロデューサー養成講座、行政経営改革塾、公共経営イブニングスクール

◆ アントレプレナーシップの醸成

- ・アントレプレナーシップ教育の展開
— 全学共通教養科目「アントレプレナーシップ I・II」の開講
- ・起業相談会の実施
- ・滋賀大学発ベンチャーの認定・支援
— 大学院教育学研究科修士生と教育学部教員が立ち上げた
「**合同会社KimiLab(キミラボ)**」を第3号企業として新たに認定 **New**



「合同会社KimiLab(キミラボ)」
(2022年7月認定)

◆ SDGsの取組

- ・滋賀大学サステナウィーク2022
- ・滋賀大学オリジナル日本酒造り
- ・子ども統計プログラミング教室 など



◆ 地域・産業界等との連携

- ・企業の課題解決研究
— 嵯峨野観光鉄道：観光需要の開拓や事業の強化
— 浜ちりめん企業：長浜の伝統的地場産業「浜ちりめん」の新たな市場開拓と製品開発
⇒ **学生が学びを得ながら調査研究に取り組む**
- ・産業支援活動
— 観光イノベーションフォーラム、ポーランドビジネスセミナー

◆ ウクライナ支援の取組 **New**

- ・ウクライナ避難民の子ども達への絵本プロジェクト
- ・絵本のウクライナ語翻訳・読み聞かせ動画配信 (OKONOMI PROJECT)
— 本学の学生とウクライナのドニプロ大学の学生によるプロジェクト
— 参加したウクライナ学生のうち2名が本学への留学を希望
⇒ **受け入れ・支援へ**
- ・「希望の大地」チャリティーコンサート
— コンサートの収益は滋賀大学基金の「ウクライナ支援募金」へ寄附



留学生2名とOKONOMI PROJECT参加学生

令和5年度以降に向けての課題と取組

- 地域との連携を一層強化するため、教職員が協働して地域連携事業を進める基盤を整備する。
- 社会人の専門知識・能力を高度化するためのリカレント教育プログラムを開発・展開し、社会人のキャリアアップを支援する。
- 引き続き全学的なアントレプレナーシップ教育を推進するとともに、次のステップとなる新たな展開についても検討する。

広報展開について - 滋賀大学ファンの増大

- コンセプト -

時代にチャレンジする滋賀大チーム
学生や教員等などが活躍する姿



滋賀大ブランド構築、滋賀大ファン増大へ
受験生・産学公連携・寄附金等外部支援獲得

topics

- 彦根高商百周年に向けて
寄附機運の醸成
- 全学HPのフルリニューアル
欲しい情報をわかりやすく



記事件数	令和4年度	令和3年度
	12月末時点	12月末時点
大学ホームページ	519	522
新聞(含むネット)	409	417
テレビ	47	28
雑誌	42	42

Science for a better society

寄附金の受入について

第3期6年間で9億円超
学生支援や教育研究に活用



◆「大学への寄附」の機運醸成

- 高商百周年に向けて寄附活動
- 滋賀大学ブランド
学生への愛、遺産・遺志による寄附は強力
- 寄附環境の整備

滋賀大学基金

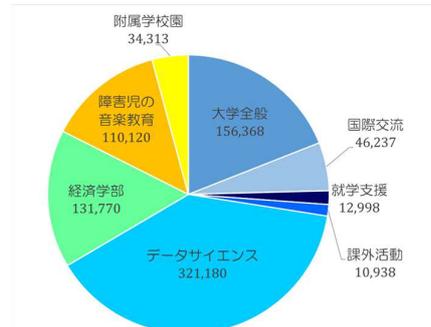
大学全般に係る寄附 (一般基金)

国際交流等の学生教育・学習支援、産学公連携の推進、研究活動の促進・高度化等

特定基金

- 修学支援事業基金
- スポーツ・文化活動基金
- データサイエンス基金
- 経済学部基金
- 附属学校園いほを生きる基金
- 藤村泰子記念基金
- データサイエンス・AIイノベーションフォグ基金

目的・分野別寄附累計額 令和4年12月末 千円



振り返り:データサイエンスへのチャレンジを通じた大学改革



○ データサイエンス:社会ニーズが高いにも関わらず我が国大学のミッションピースとなっていた科学領域への本格的取組み

⇒ 国内初の本格的教育プログラムの構築によるDS高度人材育成と研究成果の社会実装など 多様な企業連携の大幅な進展・外部資金獲得は、大学改革として注目を集め、滋賀大学のプレゼンスを高めた。

○ DSを横軸とした文理融合大学転換への契機

⇒ 教育・経済系の学部・大学院教育の高度化に寄与、デジタル時代にふさわしい教育に向けた変化を加速

例えば、教育データサイエンスへの取組みや経済学部・大学院でのDS副専攻の導入など。こうした取組みを背景に基盤教育でDS(AI)リテラシー教育として政府認定プログラムで+の評価



今年度の取組(データサイエンス部門)



◇ 中期計画で独自の計画を設定(全国的なDS教育研究拠点として、高度人材の育成と研究推進・社会実装で我が国のイノベーションに貢献)

○「データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター」を、その中核機関として4月に発足(2016～のDS教育研究センターを発展改組)

(主な活動)

- ・ 企業等連携の更なる拡大(新たにNVIDIA,e-Kagaku,クレオ、第一工業製薬、福井県県立若狭高校、国立教育政策研究所と連携開始)、また多数の共同研究・学術指導を展開。トヨタ機械学習道場など企業人材の高度化事業
- ・ 第三の新たな共同研究センターを日東電工と設立
「滋賀大学・日東電工デジタルイノベーション研究開発センター」
- ・ NVIDIAとの連携では、Deep Learning Instituteデータサイエンス教育キットの日本語版を学生の参加も得て作成し、全国に提供
- ・ 米国セントジュード子供研究病院と国際共同研究を開始
- ・ 「信頼されるAIシステムを実現するための因果探索基盤技術の確立と応用」(清水教授)が2022年度戦略的創造研究推進事業(CREST)に採択 など

今年度の取組(データサイエンス部門)



- デジタル化の進展に即したDS学部教育プログラムの変革
「AI(人工知能)教育の早期化」など
- 大学院DS研究科の拡充検討:評価が高く受験者拡大傾向
- 新たな全国大学のDS教育高度化の拠点校としての活動
「未来社会牽引DS・AIエキスパート人材育成を目指して」
- 全学教育高度化に向けて
 - ①上位の「応用基礎レベル」(応用分野×DS・AI)でも認定(8月)
(DS学部は+(プラス)認定)
 - ②デジタルと掛けるダブルメジャー大学院構築事業採択(9月)
「データサイエンス×経済・教育(DS×E2)高度専門人材養成プログラム」
- 「統計エキスパート人材育成事業」の西の拠点を学内に開設、本格化

今後の課題(データサイエンス部門)



- ① 社会の要請、我が国の発展に貢献するデータサイエンス教育研究体制の拡充、特に大学院DS研究科、DS・AIイノベーション研究推進センターの強化
- ② 大学院教育・企業連携・教員研究者の拡大に伴うスペース:新たな施設の整備(イノベーションcommons)の早期整備(彦根キャンパス)
- ③ 先端研究推進・企業連携の深化、社会人DS高度人材リスキリングの拡大(DS・AIイノベーション研究推進センター中心に更なる高度化)
- ④ 時代の進展に即した全学DS教育の拡充・強化
 - ア 教育・経済学系でのDS応用基礎レベルの更なる高度化/参加学生の拡大(将来的に全学生の過半を目指す)
 - イ 教育・経済学系大学院でのDSエキスパート人材の育成拡大(データサイエンス×経済・教育(DS×E2)高度専門人材養成プログラムの実施・展開)

「社会と共に『未来創生』に挑戦する大学」を目指して

大学の機能強化のための取組みの二つの柱

○機軸であるデータサイエンス領域の教育研究力の拡大・向上

○教育学部・経済学部の資源との融合性を高めることによる全学的進化、拠点形成

Phase.1 速達課題

R4 産学公連携推進機構拡充

(3部門体制 社会連携、アントレプレナーシップ、地域連携教育推進)

R5 経済学部改組 一学科化(経済・社会科学系の専門教育の柔軟化・融合)

社会との共創による実践型(PBL)教育力強化

R6 データサイエンス研究科博士前期課程定員増(10名→50名)

R6 経済学研究科改組=経営分析学専攻設置 【ダブルメジャー大学院教育構築事業】

教育学研究科 「教育データサイエンス実践学」付記専修免許状プログラム

【ダブルメジャー大学院教育構築事業】

Phase.2 中期における達成課題

「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援」等の外部支援を組み込み、早期実施を図る R6-7

・社会共創拠点(イニシアティブ棟)新営

・データサイエンス研究科博士前期課程定員増(25名+ →75名)

・データサイエンス学部編入定員枠新設(R8-9受入)

・新学部の可能性の検討(全学的な教育組織の強化)

大学の業務運営の評価

国立大学は、6年ごとの中期目標・中期計画を定め、その達成状況について、国(法人評価委員会/大学改革支援・学位授与機構)の評価を受ける

第三期中期目標・中期計画期間(2016-21)

4年目までの暫定評価

6段階評価(特筆・計画以上の進捗・順調・おおむね順調・遅れ・重大な改善)

教育	研究	社会 連携	その他	業務 運営	財務 内容	自己点 検評価	その他 業務
4	5	3	4	6	5	4	4

現在6年間の実績の報告を提出し、その評価結果を待っている

第四期中期目標・中期計画期間(2022-27)

滋賀大学の基本的目標=「未来創生」に貢献する大学を目指し挑戦を続けること

・教育=新たな社会での価値創造人材の育成

・研究=学際的協働を通じた価値創造的研究、産官学連携による研究の高度化

・業務運営=学長のリーダーシップの下での効果的な大学運営

この進捗管理のための重要な仕組み=自己点検・評価報告会

教員の個人評価

教員一人一人が、活動を自己点検し、質を高めていくための仕組み

「国立大学法人滋賀大学人事方針」

社会と共に「未来創生」に挑戦する滋賀大学の基幹である

「人」事の4つの柱

① 組織における人材の多様性の拡充

取組例 中期計画における多様化のための目標設定
女性教員比率 25% 若手教員比率 16%

② 柔軟な人事制度の拡充

取組例 教員は年俸制に移行 新職種の導入(URA・高度専門職)
クロスアポイントメント制度(外部との併任制度)

③ 適正な評価と処遇への反映

取組例 教員の賞与は業績給として評価に応じて支給

④ 人材育成への取り組み

取組例 「経営人材育成方針」の検討

より良い働く環境・ 学ぶ環境の実現



次世代活躍推進・女性活躍推進
ライフステージに適合した休暇制度の整備
在宅勤務制度の正式制度化の検討

過重な超過勤務の防止
超過勤務時間数の把握と指導
教育学部附属学校教員の超過勤務削減
(制度・削減の必要性を理解いただく)

ハラスメント防止
ハラスメント問題の「変化・進化」への
正しい理解←研修
学生からの相談等はゼロではない
→引き続き理解の向上のための
取り組みが必要

新型コロナウイルス感染症対策
2022年前半 3回目の職域接種
2022年後半から 「ウイズコロナ」
型の対応に移行(平常化の方向)

大学業務運営の質保証の 3つの枠組み



国立大学法人ガバナンスコード*の適合状況の点検 3点の改善

①法定会議の委員の選定についての説明責任
→経営協議会委員の選考方針を策定

②人材育成政策の策定
→「経営人材育成方針」策定を進めている

③役員業績評価の改善
→経営協議会において役員の業績審議をより実質化
する改善

*国立大学の経営・教育研究等業務が効率的・適正に
実施できているかどうか点検するための基準

内部質保証

大学設置基準(教育及び研究、組織及び運営、施設及
び設備の状況が大学としての質に達しているかの基
準)に照らし、点検する取り組み(参考資料「内部質保
証に係る点検状況について」参照)

内部統制

業務の有効性及び効率性の向上、法令遵守、資産の
保全並びに財務報告等の信頼性の確保等を図るため
に業務の遂行状況をチェックする取り組み
本年度の点検による改善例
○情報セキュリティリスクの評価と対応のための取り
組み体制の強化

令和4年度学長裁量経費の配分について

基本理念

- 「令和4年度以降の予算編成の基本方針（令和4年3月18日役員会承認）」（抜粋）
 - ・第4期中期目標・計画に盛り込んだ「未来創生大学」実現に向けて、本学が教育研究や社会との協働による社会変革の駆動的役割を十分果たしていく
 - ・学長のリーダーシップのもと、「未来創生大学」実現に向け、「ミッション実現戦略分」を含めた学長裁量経費を確保する。
- 学長の構想等を実現するための取組を推進する経費

財源及び配分方針

令和4年度予算：132,287千円

運営費交付金「ミッション実現戦略分」（31,679千円）
基幹運営費交付金積算上の学長裁量経費（100,608千円）

■ ミッション実現戦略事業 約34,000千円

社会的なインパクトの創出につながる事業

- ・対象部局：中期目標・計画担当部局である主担当の学部・機構（3学部・5機構）

・配分額：

1年度当り配分額	1学部当り(研究科含)	1機構当り
	7,000千円+a※	2,000千円

※別途、成果指標に基づく学部インセンティブを配分（令和4年度は1学部当り1,000千円程度）

- ・事業期間：6年間（期間中は上記配分額を基本的に継続して配分）
- ・対象事業：中期目標・計画に基づいた社会的なインパクトの創出につながる事業を対象
- ・要求方法：対象部局において「対象事業」に該当する6年間のロードマップを指定（令和5年度以降は、原則要求不要）
- ・採択後の評価等：毎年の進捗については、自己点検・評価WGにおいて、特色ある取組や優れた成果等の特記事項（トピックス）を含め、中期目標・計画の進捗管理をもって確認
社会的インパクトについては、中間（4年目終了時）及び期末（6年間終了時）に国により評価され、第5期中期目標期間の配分に反映

■ 戦略的プロジェクト 約99,000千円

①事業実施責任者の要求の中から学長が選定する事業

- ・要求者：事業実施責任者は部局長
- ・事業期間：1年（複数年にわたる支出が想定される経費には留意）
- ・対象事業：補助金や外部資金等の獲得に繋がる事業や戦略的取組事業を対象
- ・留意事項：1部局長当り1事業程度まで内容及び金額については厳選すること
- ・採択後の評価等：実績報告書に基づき確認

②学長自らが企画する事業

令和5年度運営費交付金の概算要求等について

令和4年度予算

令和5年度予算措置

【ミッション実現加速化経費】

教育研究組織改革分	【組織整備】 「データサイエンス・AI領域を核とした先進的教育研究拠点（データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター）の形成」（日本人教員2名、URA1名、事業推進費） 34,950千円
	【組織整備関連プロジェクト】 「『データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター』における、デジタル社会変革教育研究プロジェクト」 24,000千円 (概要) 「データサイエンス教育研究センター」を発展的に組織再編し「データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター」を設置、産業界等との連携により蓄積したDS・AI研究の知見を基に、DS領域リーディング拠点として先端研究を国内外に展開し、DS/AI教育の学内外の司令塔として全世代に個別最適化されたDS・AI教育を展開する。

実現戦略分	各法人が社会的なインパクトを創出するために効果的な取組を分析し、その戦略的な強化に取組むことを後押しするための必要な経費 31,679千円
-------	---

【ミッション実現加速化経費】

教育研究組織改革分	【組織整備】 「データサイエンス・AI領域を核とした先進的教育研究拠点（データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター）の形成」（継続：日本人教員2名、事業推進費(URA1名含)） 34,950千円 (拡充：日本人教員1名、事業推進費(URA1名相当分含)) 23,775千円
	【組織整備関連プロジェクト】 「『データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター』における、デジタル社会変革教育研究プロジェクト」 (継続：プロジェクト経費) 24,000千円 (拡充：プロジェクト経費) 24,000千円

実現戦略分	※本経費は、第4期中期目標期間中、原則令和4年度の予算額で固定 31,679千円
-------	--

【共通政策課題分】

数理・データサイエンス・AI教育強化分	「未来社会牽引DS・AIエキスパート人材拠点形成」事業(拠点校) 73,000千円
基盤的設備等整備分	一人一台端末の学習環境に対応した教室用機の整備 9,503千円

【共通政策課題分】

数理・データサイエンス・AI教育強化分	「未来社会牽引DS・AIエキスパート人材拠点形成」事業(拠点校) 73,000千円
基盤的設備等整備分	措置なし 0千円

合計 173,132千円

合計 211,404千円 28

令和4年度における施設整備等について

I 令和4年度の進捗状況と点検・評価

①適切な施設の維持管理

- (彦根) 第2校舎棟トイレ改修
- (膳所) 中学校トイレ改修
- (長曽根) 偲聖寮給湯ボイラー更新
- (石山) 保健管理センター相談室他換気扇設置
- (膳所) 附属中学校体育館外壁改修
- (膳所) 附属幼稚園更衣スペース確保【3月完了予定】
- (彦根) キャンパス環境整備【3月完了予定】
- (膳所) キャンパス環境整備【3月完了予定】



(彦根) 第2校舎棟トイレ改修



(膳所) 中学校トイレ改修



(長曽根) 偲聖寮給湯ボイラー更新



(石山) 保健管理センター相談室他換気扇設置



(膳所) 附属中学校体育館外壁改修

令和4年度における施設整備等について

②教育・研究環境の整備

- (石山) 総合研究棟改修(自然科学系)(I期)【3月完了予定】
- (あかね) 特別支援学校改修(I期)【R5年度以降工事予定】
- (彦根) イニシアティブ棟新営計画【R5年度以降工事予定】

③施設の有効活用

- (彦根) 陵水会館改修

④省エネルギーの推進

- (彦根) エアコンフィルター清掃
- (膳所) 附属小学校3階多目的ホール照明LED化【3月完了予定】



(石山) 総合研究棟改修
(自然科学系)(I期)
【3月完了予定】



(彦根) 陵水会館改修



(膳所) 附属小学校3階多目的ホール
照明改修【3月完了予定】

II 令和5年度以降に向けての課題と取組

施設整備費補助金等により、老朽施設の改修が進められてはいるものの、施設・設備の老朽化に伴う不具合が非常に多いうえに各部局からの工事要望もあり、すべてに対応できない状況である。限られた予算を有効的に活用するためにも、不具合箇所の補修を行う事後保全から、不具合の発生前に改善を進める予防保全への転換を図る必要があると考えている。

1. 教育活動

- COVID-19への対応:9割以上の科目を対面で実施
- 教育実習:ほぼ年度当初の予定どおり実施,教育実習(小中)の新設
- 教育プログラムの充実:数理・データサイエンス・AI教育プログラム,ダイバーシティ教育に関する専門科目群の設計, PBL教育の充実, STEAM教育の充実, 教師インターンシッププログラムの改善
- FD活動:FD講演会「暗記から論理的理解へ意識を変える取り組み」の実施

2. 研究活動

- 県教委との専門委員会の継続
- 地域共同研究の実施(36件)
- 自治体・教育機関・企業・団体等と協働した研究(15件)
滋賀大発ベンチャー



3. 学生支援

- 新入生歓迎イベント,開学祭,学園祭の規模拡大
- 教職セミナーの実施
- ラーニングコモンズの有効活用(作品展示)



1. 教育活動

- COVID-19への対応:学部と同様
- 教職大学院への一本化, 連合博士課程担当教員の増加
- 実習科目:研究者教員と実務家教員が協同して実施
- データサイエンス教育の充実
- 教育データサイエンス実践学を修めた学生の輩出のための整備
- 滋賀県教育委員会との強固な連携

2. 研究活動

- 滋賀県総合教育センター研究発表大会における院生の発表
- データサイエンス教育の成果と課題の整理

3. 学生支援

- 教職大学院専任教員による就職支援
- 連合博士課程学生のためのゼミ室の整備
- オープンキャンパスではハイブリッド型の説明会を開催・現役の大学院生による相談会の開催

1. 附属学校園

- 実践に基づいた環境教育, 理数教育, ICT活用能力等の推進:環境省との連携, SDGsの17目標を取り込んだカリキュラム構築, 思考ツールを用いた学習推進, 知財創造教育として内閣府との連携
- 外国語活動・英語学習の推進:留学生との交流活動(CIEE)
- 学部と連携・協力した教育研究活動の成果の地域への公開:県内の研修会への講師派遣, 県内各所の授業研究会への講師派遣
- 多様な児童生徒に対する実践的な教育実習

2. 教育実践総合センター

- 学生支援:教育実習支援, 就職・キャリア教育支援
- 地域連携:地域の教育課題解決のためのコーディネート



3. 音楽教育支援センター

- アウトリーチ事業:特別支援学校等でのコンサート
- インリーチ事業:特別な支援が必要な方のための楽器レッスン
- 指導者研修:指導者養成のための講師派遣, オンライン講習
- パイロットプログラム:アール・ブリュット展の開催
- 文部科学大臣表彰



1. 教育内容と実施体制

- 学部・教職大学院・連合博士課程の一体的な運営
- 教育プログラムの充実:数理・データサイエンス・AI教育プログラム, ダイバーシティ教育に関する専門科目群の設計, SDGs教育の充実, STEAM教育の充実, 教師インターンシッププログラムの改善

2. 研究活動

- 地域が求める教育課題についての共同研究と成果発表
- 学部と附属学校の連携と学部教育への反映
- 自治体・教育機関・企業・団体等と協働した研究の充実



3. 地域連携

- 県教委との協議を通じて地域の教育課題に対応

4. 学生支援

- 教師インターンシップの見直し

教育における取組み

学部改組/データサイエンス教育/グローバル人材育成

新しくなる滋賀大学経済学部

これまでは受験時に選択していた**5学科を1学科に統合**
経済学、経営学に加え法学、人文学など領域を超えた学びによる総合知を養成



ポイント!

- * 入学後に教養と専門を広く学び、3年生進級時に専攻を選択
- * 様々な学問領域を自由に学べる多彩かつ柔軟なカリキュラム
- * 日本初のデータサイエンス学部と連携したデータサイエンス教育で最新の知識とスキルを習得
- * 海外留学、資格取得サポート、実践的な演習科目も充実

MDASH Literacy

Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education



(認定期限: 令和8年3月31日)

MDASH Advanced Literacy

Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education, designated by the Gov of Japan



(認定期限: 令和9年3月31日)

35

さらに時代をリードするスペシャリストを目指して

世界を舞台に活躍するグローバル・スペシャリストや未来を担うビジネス・データサイエンティストを育成する2つの**特別コース**を用意しています。

グローバル・コース

国際社会が抱えている複雑な課題や多様性に柔軟に対応できる人材を育成します。コース参加者の自由な発想と潜在能力を発揮できるプログラムです。

特色

- * 英語による専門教育
- * 海外研修、海外インターンシップ
- * 海外協定校等への留学
- * 自主企画海外体験・研修

データサイエンス・コース

体系的にデータサイエンスを学び、文理融合型のデータ活用能力を持つ多面的・多様な人材を育成します。

特色

- * 数理・データサイエンス・AIの体系的教育
- * 実際のデータを用いた演習
- * プログラミングやデータベース教育
- * データから価値を創造する実践的教育

地域連携教育

PBL/地域インターンシップ/サステナウィーク
=>産学公連携推進機構へ

専門性を高める教育

大学最多17名の合格者を輩出
滋賀大学経済学部のみなさんにインタビュー



- ・協力講義
- ・報奨金制度=>
会計士、税理士、
日商簿記検定1級、
証券アナリスト、
統計検定

研究の活性化に向けた取組み

陵水会後援基金などによる学部独自の研究助成制度
外部資金等を基にした柔軟かつ機動的な研究支援策

来年度に向けた課題と取組み

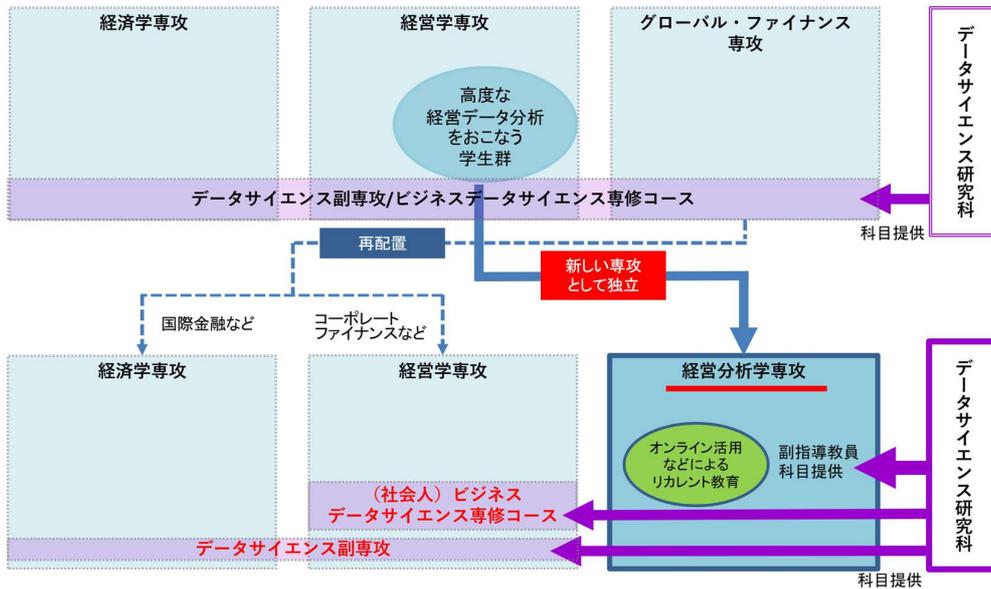
学部改組の成功/経済学部100周年記念事業
総合型選抜(課題図書型)の改革/PBL授業/夜間主/履修証明プログラム

100TH 滋賀大学
経済学部
もっと自由に 未来を創る



経済学研究科の取組み

【改組案】 経営分析学専攻の立ち上げ検討



【課題】博士前期課程の入学者の安定的確保▶ 1年制社会人コースなど国内学生の確保/オンライン授業や土日開講を含めた検討/履修証明プログラム

附属施設等の現状と課題

経済経営研究所

【現状】金融機関との共同研究・連携の可能性(リスク部門)/先端研究セミナーの開催(先端研究部門)/ワークショップの開催やeスポーツに関する講演会およびプレ企画の開催(未来社会研究部門)/企画展の開催など

【課題】自治体や企業、経済団体等と協働した地域社会の価値創造への貢献/環境やリスク分野の研究を発展させた「未来社会研究」の推進



経済学部附属史料館

【現状】近江商人・近江系企業の調査・研究/国宝「菅浦文書」/史資料の収集の公開、研究成果の発信/県内外の研究・教育機関および各自治体との連携/史料館の国際化

【課題】寄附金等を活用し近江商人や滋賀銀行に関する史料の調査・整理/国宝「菅浦文書」/企業や地方自治体との連繫強化



データサイエンス学部における教育・研究活動



- 6年目のDS学部
 - 2期生が卒業。IT系4割、多彩な非IT系4割、大学院進学2割
 - DS分野の人材を必要とする企業は一層多様に。
 - インターンシップの拡充
- デジタル化の進展に応じたDS教育のカリキュラム変革
 - 例)新科目「人工知能」、「因果推論」
- 教育・研究スタッフの充実(国内最大規模の体制)
 - DS領域の拡大に応じたスタッフの増員(学部当初15名⇒26名に)
 - R4年度4月赴任教員公募(2人)に50人近い応募
 - R5年度4月赴任教員公募(3人)に60人近い公募
- 企業、自治体等との教育面での連携
 - 企業からの講師派遣のさらなる充実(新たに20社以上)
- 入学試験
 - R6年入試より一般入試・総合型入試をよりシンプルな形に

データサイエンス教育の全国拠点として



「未来社会牽引DS・AIエキスパート人材拠点」：滋賀大学

- 教材の拡充・進展
 - 統計入門書(エクセル+統計)、多変量解析の教科書が完成
 - 複数の教科書(応用基礎レベルの概説書、実用例で学ぶDS等)が今年出版予定。他大学用に再編纂したものも出版。
 - オンライン教材作成中(大学生のためのDS(4)、NVIDIAとの連携)
- DS教育に関する他大学へのアドバイス
 - 新設データサイエンス学部へのアドバイス(3校)
 - DS分野のカリキュラムに関する相談(10校)
 - 人文系拠点校として、とりまとめ。
- 統計エキスパート育成プロジェクト(西の拠点)
 - 一期生2人、二期生1人を研修派遣、来年度、他大学からも受入れ研修
- DS系大学教育組織連絡会
 - 現在10校が加盟(滋賀大学が幹事)。今後も参加校を拡げる。
 - 大学間での教員の交流(「基幹教員」制度の活用)。



データサイエンス学部の今後の課題



- DS教育の重要性の認知度の拡大に向けて
 - 高校では文・理の「分離」が存在。デジタル化が進む実社会で重要な役割を果たす「データサイエンス」への理解がまだまだ不十分。
 - 一方で、高校での「情報Ⅰ」の必修化、国立大学受験では共通テストの必須科目になることで、状況は変化？
 - いずれにしても、高校への広報を積極的に行っていく必要。
 - 高専生の編入を受け入れる(令和6年度開始?)
 - DS教育では数理統計の役割大。入学後の数学の補修教育強化。
- DS教育拡大に伴うスペース制約課題
 - 教育体制強化のための教員・研究者増(学部・センター合計50名弱) 企業連携の更なる拡大、大学院院生増加(毎年50名程度)などから、研究室や連携スペース不足が経常化しつつある。
 - 講堂の改修や陵水会会館改修でもすでに満杯
 - 新しい建物(イニシアティブ棟)を早期に建設する必要。

データサイエンス研究科の現状及び今後の課題



DS研究科の現状

- 4年目に入った修士課程
 - 3年目に定員を40名に倍増も引き続き定員超え
 - 4期生46名入学のうち、19名が企業派遣
 - 派遣元の業種も様々で異業種交流
 - 派遣以外の進路: IT、製造、製薬、金融等へ20名
- 博士後期課程は3年目となり、定員超え5名入学
 - 文部科学省「数理及びデータサイエンスに係る教育強化・数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」事業に選定: DS分野を牽引する人材の育成
- 来年度も定員を超えた入学の見込(前期課程応募者81人、倍率2倍超)
- 経済・教育両研究科と連携
 - デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業: 「データサイエンス×経済・教育(DS×E2)高度専門人材養成プログラム」
 - 経済学研究科副専攻プログラム

4期生の派遣業種

業種	人数
金融系	4名
製造系	7名
IT系	3名
政府系	5名

今後の課題

- 定員の更なる増: 修士課程50名、博士後期課程6名
- 教育・研究・連携スペースの確保
- 学部、研究科、データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターの有機的な連携